

## 全人教研究大会報告プレ発表について

心温まる指導の実践でした。生徒の接し方や組織的に動く、勉強になりました。ありがとうございました。

Aさんの気持ちをすべて受け止めて寄り添ってらっしゃる下田さんは素敵だと思います。先生にとって～せねばならないということはありませんか？

感動しました。下田先生の優しい人柄やAさんに親身に向き合っ、心からAさんとの時間を楽しんでいたからこそAさんが下田先生のことを信じていい関係が出来たのだと思います。自分もそんな先生になりたいと思いますが、なかなかうまくいきませんが、個を大切にしないといけない！そこが自分にはまだ足りないのだと思います。とても勉強になりました。

全人教でもいい発表になると思います！

下田先生の質疑への回答などから、とてもAさんのことを考えて、寄り添っていたのだということを感じました。ありがとうございました。

とても参考になりました。下田先生の素晴らしい実践を自分に振り返って、これから生徒との関わり方を工夫したいと思います。

人権教育の大切さ、教師の学ぶ大切さに気づくことができました。ご発表の成功をお祈りしております。

プレ発表、ありがとうございました。生徒が苦手なことや、出来ないことを、生徒のこと考えて「個性」という言葉を使っていることは、私も含め、教育の現場では多くある様な気がします。その事を、よく思っていない生徒もいることを改めて知ることができました。

今日の発表を聞いて、子どもの声にしっかり耳を傾けることの大切さに気づきました。また、系統性のある、それでいて、個に応じた柔軟な指導を見習いたいと思いました。

私はどうしてもまわりの目が気になりすぎてしまい、まわりの先生に自分のクラスがどう思われてしまうのか、と心配になってしまいます。その結果、ルールや規範意識に対してどうしても厳しくなってしまう、子どもたち同士の関わりや自由な発想を知らず知らずのうちに断ち切ってしまうように思います。今回のレポート報告のサブタイトルにはっとさせられました。

2人の関係性について、大変考えさせられました。わたしはここまで、率直に自分のことを詳細にわかって、先生と、語りあえる関係性をつくれていないあと、思いました。

ていねいな支援と気配りや目配りをされていたと感じました。Aさんに関わる先生が、いきいきと教育支援されているのが、わかりました。本大会でも、頑張ってください。

素晴らしい実践で誰にでもできるものではないレベルの高い実践であるとおもいます。ただ、領域によるくくりはおかしいかもしれませんが、人権・同和教育というより教育相談のレポートのようでした。個別のかかわりだけでなく、もう少し人権学習や集団との関わり部分が開きたかった。

たくさんの実践勉強になりました

下田さんの「待つ」姿勢を学びました。子どもに寄り添い、あたたかくじっと待つことの大切さ、痛感しました。つい、こちらの思いが優先してしまいがちですが、子ども(相手)の思いをくみ取ることを、これからも心掛けていきたいと思いました。八代でも頑張ってください。

私も「～せねばならない」という考えをすることが多いし、時には強くそう思うことがあります。融通が利かないというか柔軟な考え方ができないことが多々あります。多様性が年々広がっているのに、個に応じた柔軟な対応ができるように意識していかなければいけないと思いました。まず意識しなければ、行動につながらないので、強く意識していこうと思います。

Aさんのしっかりした考え、生き方に感心するとともにAさんをありのままに受け入れる下田さんの教育方針に多くの学びを得ることができました。ありがとうございました。全人教の報告頑張ってください。

Aさんの事例を見て、学校生活だけの本人を見て本人の事を判断するのではなく、校外生活での本人、担任と対する本人だけでなく、学校生活及び本人にかかわる人々との連携を通して、理解していく事の重要性を学びました。

Aさんと適切な距離感のもと、現代の働き方に即した、とても勉強になる報告でした。

本番は、別会場に行くので下田先生の報告を聞くことができよかったです。私自身も、～せねばならないとついつい子どもとの関わりの中でさせていたなど思い返して、反省をしました。子どもとの関わり方を振り返るいい機会を頂きありがとうございました！

一般的に教師はこうあるべき、こうすべきというものがあるのをなんとなく自分でも思っていることがあるが、それに縛られてうまくできていないこともあったように思った。

Aさんの「個性と言われるのは嫌なんだよね」という言葉を見て、ドキッとしました。私自身生徒と関わる時間も短いですが、つらい思いをさせないようにと「個性」という表現を使うと思います。(下田先生がどのような意図で言われたのかはわかりませんが)それはAさんからしたら嫌なことであろうし、傾聴することも大事だと思いました。下田先生とAさんの関係性がとてもすばらしいと思いました。私もそうなりたいと新人ながら思いました。目標となりました。

とてもすばらしいレポートでした。「せねばならない」を、まず疑うことから始めなければならないと思った。しかし、まてよ。まず、基本を決めてそこから枝分かれしてくものではないのかも思った。子どもがストレスを抱かないように、熟考し、なかまと相談していくことも大切かと思う。グルになって年間計画を作成するというの、いい取組だと思う。

子どもの困り感について、寄り添っていく姿勢がとてもすばらしく思います。子どもの気持ちをしっかり理解して見守ることはとても大切なことだと思います。私も努力していますが、うまく子どもに寄り添えないのが実情です。これから子どもの本当の姿が見れるように人権意識を高めていきたいと思っています。

はっとさせられるAさんの言葉は、私たち教員として生徒を教え導く役目として指導者という立場で対応してしまうことがあり、一個人として関わることの大事さを伝えられるよいレポートだと思いました。

Aさんと下田さんのすてきな関係に感動しました。子どもの背景を知ること、思いを聞くこと、忙しい日々のなかで忘れがちになります。大事にしたいと思います。

下田先生と児童との関わり方は、参考になることばかりであった。児童生徒の気持ちを尊重しながら、居場所をつくってあげたい

Aさんの思いを本当に大切にされ、尊重されている先生の関わりを学ばせていただきました。「個性」という言葉をAさんが自分で感じていることをそのまま言葉にできたことはとてもすばらしいと思いました。先生との信頼関係の深さを感じました。

報告ありがとうございました。絵もすばらしく、Aさんの人柄をみせてもらった気がしました。児童生徒から教えられていることは多々あると思います。その実体験を聞いた貴重な機会でした。

子どもに限らず、人に接するときにはその人が考えていること、その人が育ってきた環境を考えながら、言葉を発することが大切であることを改めて感じました。子どもとの関係性をしっかりつづられているからこそ、下田先生が話した言葉についてAさんは正直に自分が思っていたことを話してくれたのではないかと思います。

自分ももっと生徒に関わっていかなければならないと改めて思いました。接し方もいろいろ考えてやっていけないといけない、簡単にいきませんが、何もいわず実践しないといけないかなと思っています。すばらしい取組の発表ありがとうございました。

下田先生の雰囲気や声がとてもよかったです。児童生徒が心を開くことができる優しさを感じられました。Aさんの「わたし、個性って言われるのはいやなんだよね」の言葉は、今の学校教育の中で、あまいで甘くなっていること、教師一人一人が自分の中で意識しておく必要があると思いました。

質疑のなかで、「ただ聞けばよかった」と傾聴の大切さを話されたのがよかった。担任を代わるときに「ゆだねる」、自分だけの取り組みでなく、みんなで組織で取り組む大切さとか、いろんな目やいろんな考え方で子どもをみることの大切さを教えてくださり、なるほどと思いました。「統治」ではなく、一人ひとりを大事にし、個性を伸ばしたり、お互いの違いをよさとして認めあえるような学級の雰囲気づくり、先生の温かさや確かさに改めて感謝と拍手です。ありがとうございました。

我々は「個性」という言葉を安易に使っていないかと考えた。「個性」を使わず、よさや「～すごいこと」など言葉をおきかえていきたい。言葉に気を付けて、子どもたちのほげましを行ってきたい。

<p>生徒一人ひとりに対し、もっと時間と労力をかけることができれば、本人だけでなく関わる多くの人々にとってより良い方向へ向かっていけるはずのところ、なかなかそういかないところだと思います。そのようななか、良い方向へ向かうことができた良いケースだと思います。</p>
<p>報告者の下田先生については、コロナ期にオンデマンドの佐同教研究大会分科会で、「医学モデル」から「社会モデル」に変えていくことが重要であることを述べられ、私自身もこのことについて、良い学びができたことを覚えていました。あの時は画面越しの一方的な報告でしたが、今回は報告者とフロアーにいる支援教員の質疑応答が行われ、より深い学びができました。ありがとうございました。</p>
<p>これまで私は「違い」を「個性」として捉えることをしがちでしたが、この「違い」が嫌いな子どもや生徒がいることを知っておく必要があると思いました。「違い」をすべてを「個性」という言葉で扱おうとする自分がいたことに気づかされました。子どもや生徒の一部分だけみて判断しないようにしたいと思います。</p>
<p>子どもと教師の信頼関係ができていてこそ、よりよい支援になると感じました。</p>
<p>発表中でAさんへの声かけ「個性として捉えていいんじゃないかな」は自分も同じようなことばかけをした経験があり、「個性」を安易に使いすぎているという反省があります。視点の転換は児童・生徒と接するときには頭の片隅にとどめておこうと思いました。</p>
<p>下田さんのレポートを通して、大切なことをたくさん考えることができました。不登校傾向にある子どもにとって理由を追求されると、本人はきつくなると思います。本人もよくわからないまま、対人関係、うまくいかない自分自身に対する様々な思いが積み重なって、体調にあらわれると思います。だから、理由を探して〇〇というのではなく本人が安心できるようにすること、自分に対する思いを少しでも前向きにすることが大切だと思います。(解決志向型アプローチ)下田先生は、Aさんのありのままを認め、まず教室にタッチすることから、人の目にふれないように学校に入ることができるようにすることからAさんが無理なくスモールステップで保護者さんとも「あせらずに」ということがAさんの安心につながっていると思います。そして、下田先生との会話、保健室の先生と交流と少しずつ輪を広げられたこと、Aさんの得意な絵が桜岡小のあちらこちらに飾られていることから、Aさんの得意なことを生かし、自信につながるようにしてあることなど、先生方が情報を共有し、温かく見守ってあることが感じられました。また、一昨年の佐同数での報告でもありましたが、周りの子どもたちも、下田先生との継続した学習の中で一人ひとりにあった学び方があること、多様な人がいること、自分は何気ない言葉で人を傷つけていないか考えていったことなどが「Aさんだけでなく、いろいろな子どもが「ありのままの自分がいい」を感じ、安心につながっている」と思います。</p>
<p>そして、Aさんの「自分の中で嫌いだと思っていることを個性と言われると……」の言葉は、私たち教職員が受けとめていく大事な言葉だと思います。下田先生や桜岡小学校の先生方が、Aさんと向きあってよりそってきたからこそこのAさんの本心だと思います。そして、これは、Aさんだけでなく、学校に行きづらい子ども、いろいろなことで困り感がある子ども、表面上は大丈夫みたくに見えていても、もしかしら抱えているかもしれない子どもの思い、だと思いました。「その子どもたちの思いに気づけるようになりたい」「子どもたちが安心して自分の思いを語れるような取組を模索していきたい」と下田先生の報告を聞いて強く思いました。ありがとうございました。</p>
<p><b>課題別研究委員会研修会について(分科会での役割、今後実行していこうと捉えていること)</b></p>
<p>フードバンクさがへあいさつに行く。</p>
<p>運営責任者の江口さんを見て、すごいなあと感心するとともに、自分にはできないなあと思いました。</p>
<p>総括に向けて協力してがんばります!</p>
<p>総括、動画作成</p>
<p>成果物作成中です!頑張ります</p>
<p>差別用語(賤称語)の不適切使用への対応マニュアル作成、役割分担など。</p>
<p>アンケート検討の結果を踏まえ、会の持ち方やつくりについて意見をもち来年度に活かしたいです。</p>
<p>和気藹々と語りあえるようになったなあ、思いました。今後も、よりわいわいと語り合い、来年の種になることに取り組めたらと思います。</p>
<p>入試面接の不適切質問のまとめを責任もって提出したいです。</p>
<p>第4分科会はメンバーもチームワークも雰囲気も良いので、成果物をより現場の先生方の役立つものになりたいと思います。</p>
<p>初めての記録だったが、次回も挑戦したい</p>
<p>分科会では、受付の準備と、当日の手伝いが出来、喜んで頂けて良かったです。役割はアイスブレイクでした。課題別で見て頂き、アドバイスを貰い、当日も雰囲気良かったよ、と言って頂いたので、良かったです。また、他の方々の仕事や、当日の第4部会の雰囲気から、多くの子が学べて、経験できて良かったです。</p>
<p>まず、委員長という役割を担っているの、佐同教の山口さんをはじめいろいろな方々と協力しながら、研修を深められるようにしたいと思います。また、子ども支援、家庭支援はいろいろな方々と連携しながら、尽力できたらと考えていますが、家庭のことには、どこまで立ち入っているのかの塩梅が難しいので、そこは慎重にいかなければいけないと思います。</p>
<p>課題別委員会のメンバーのみ皆さんの協力のおかげで無事に分科会を成功裡に終わることができました。今後、総括で課題となった点をこれからの実践に生かしていきたいと思います。</p>
<p>任された業務を責任を持ってこなしていきたいと考える。</p>
<p><b>【人権保育研究委員会に関して】</b> 「人権保育」に関する研究部分は、やはりゆくゆくは園の先生方中心で行っていくべき領域です。保・幼-小-中-高連携という観点と捉え、私たちの学びになることも否定はしませんが、正直に申し上げて園の研究を私たちが肩代わりしていることも否めません。今後、人権保育のメンバーとなる先生方のためにも、たとえば、子どもの発達や臨床心理に関して研鑽を積むことに特化した委員会へシフトされていくと良いのではと考えます。</p>
<p><b>【環境づくり委員会の在り方について】</b> 非常に有意義な提言が為されていると感じました。全ての分科会について、発足当時とは時代背景も変わり、必然的に求められている研究も変わっているはず。それは佐同教そのものについても同様ですが、)</p>
<p><b>①進路パンフレット</b> 前回の課題別では、続きをする予定になっていましたが、結局時間が不足し全く作業することができていません。場当たり的な活動で、完成までのスケジュールの見通しがわかりません。個人的には、内容の更新に加えて、掲載事項の妥当性や削減等も話し合い検討をしていきたいと思っていますが、たぶん無理なので諦めています。</p>

<p>②面接調査の依頼について          文書自体は、2回前(伊万里)に配布されていましたが、時間が足らずに話し合えていませんでした。今回初めて検討する文書に対して、12月には出さないといけないからと言われ、これでいいですか?と聞かれました。          正直、一年目でよくわかってない状態なので、内容すら分からないので意見は言えません。せめて、前年度の反省等を示されながら検討できないでしょうか。調査方法も受験の把握が難しいケース等があり限界があるなど感じました。発想を変えて、受験生ではなく、面接を実施している学校に対して調査をお願いするような取り組みができないのか疑問でした。</p> <p>そもそも第二分科会は、課題別の時間では足りないくらい業務内容が多いと思います。</p> <p>役割どうこうという前にまずは、目標参加者数100%をかき集めることが重要任務。「目標を大きく下回っている地区・学校については、地区同研・研究局長まかせにするのではなく、どのようにして参加を促すかについて、県教委・市教委・佐同教・地区同研・支援教員ぐるみで対策を考えていくべきではないだろうか?今年度三神地区は目標達成率26%(目標119人:参加31人そのうちオンデマンド10人)と昨年66%の半分以上である。ここまでくると地区内の学校のほぼ全てが分科会に対して意味も価値も持ち合わせていないのではないだろうか?と疑わざるをえない。校長・教頭・教委に聞き取りしたいくらいである。(不参加の理由を)来年度開催地区としてどの面下げて主催するつもりなのかを知りたい。これを放置したらどの地区も参加率が低下していき、分科会は崩壊すると予測する。</p> <p>仲間づくりの参考になる資料集め          分科会のまとめ</p> <p>・仕事は明文化、共有化が重要であると思うので、今後も実行していきたい。          ・今年度の分科会は、来年度のための実験であるので、今年から来年度の計画を作っておきたい          ・樋渡さんの計画ののって、今年度の委員会の成果物をつくるのは、とてもよいアイデアだと思う。          ・社会学分科会に向けて、スムーズな移行をめざす。そのために、前年度、本年度、来年度の社会教育・行政の組織づくり、チームづくりをめざす。</p> <p>今年の分科会での反省をいかして、来年度、取り組めること、今年度中に準備できることを整理し、できることを行っていきたい          奨学金パンフの完成配付と面接質問の不適切質問の集計に取り組んでいく          おおよそ順調に総括ができあがりました。          集合研修は、先生方の教育に対する熱を肌で感じるができる貴重な機会である。若い先生方には積極的に集合研修に参加してもらえるように促していきたい          分科会振り返りについて各委員と意見を交わし、来年度に向けた改善点を明確にしようと思います。課題別研究については、残り回数が少ないですが、各委員で「仲間づくり」に有効な実践事例を持ち寄ろうと考えています。          第5分科会は非常に有意義だった。分科会の参加は積極的に行いたい          分科会ではレポ検チーフの役割でしたので、報告者にアンケート結果を渡して、課題別研究委員会で出た意見などについてお伝えしようと思っています</p> <p>自分が気付いたことはどんどん意見を言っていかなければならないと思っています。分科会としての課題についても少しでも解決していけるように今後も考えていきたいです。一人で考えるよりみんなで考えるほうがアイデアも出るような感じがしています          ・自分なりに考えたこと、気づいたことをしっかり発言していこうと思っています。特に若い先生方に、いろいろ考えを持ってもらったり、意見を出してもらったりすることができればいいと考えています。          ・分科会で取り組んでいけそうなことを考え、自主的にできることなどについても示すことができればいいと思います</p> <p>各分科会から成果や課題が出され、それぞれの学びがわかったし、共通の課題もみえてきました。そのなかで三神地区からの参加者の少なさは他地区同研に対し、恥ずかしい限りで、ここが一番の課題です。次年度は我々の地区での開催なので、どう盛り上げ、巻きこんでいか考えないといけないなど思っているところです</p> <p>実践報告の司会者として、地区のエリア研で総括をしっかりと行いたい。第1分科会に3年続けて関わり、市町の取組を発表担当の市町以外でもどんな取組をしているか把握しておいた方がいいと感じる。社会教育の発表は、特に年度またぎがネックとなるため、早めの決定のための支援を行うことが大切だと感じた</p> <p>来年度まで継続して進行中の活動を、終了後きちんと総括して今後につなげていくこと。          今後、分科会の在り方や課題別研究委員会のメンバー構成など、改革していく必要があるなど思いました。          今年度の分科会の反省を活かしつつ、来年度に向けて取り組んでいきたいと思っています。          分科会の総括を終わらせることができたので、成果物の作成の準備に取りかかりたいです。          参加・運営ともに初めてでした。私は会場係でしたが、さまざまな意見を拾い上げ、限られた時間の中で学びを深めていく総括討論の進行係の方を尊敬します。私にはできません。          課題別研で、研究大会を受けて様々な話し合いをしました。          報告に対して、質疑・応答・感想だけでなく、それぞれの学校での取組みや自分が取り組んでみたいことを話し合ってもらうために、グループでの話し合いを多く取り入れた。ふ・せんを活用して話し合いを進める予定であったが、十分に取り上げることができず、総括討論に関してたくさんの意見を頂いた。自分の中で事前に考えていたが、グループ討議で出していた意見を教えてもらったことを受けて、参加者に意見がないか聞くことが多くなってしまったので、今後は総括討論のやり方などを事前に課題別委員会です十分話し合う時間を確保して考えていきたいと思った。ふ・せんの活用の仕方、応用紙にKJ法でまとめたが、それを参加者に遠くで見つらかったと思うので方法を考えていきたい</p>
--

度合	人数
1	2
2	2
3	7
4	17
5	11
回答数	39名
回答率	84.8%
欠遅早	0名

